
大決戦!!超プリキュアオールスターズ～目覚める伝説の戦士～

ターザン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

大決戦！！超プリキュアオールスターズ〜目覚める伝説の戦士〜

【Nコード】

N4033Y

【作者名】

ターザン

【あらすじ】

1999年、プリキュアがテレビ放送を開始した。つぼみ、えりか、いつき、ゆりはプリキュアの影響で様々な夢を作る。

そしてある日、白い服を着た少年に出会う。

それが全ての始まりだった・・・

主要登場人物紹介

登場人物設定

本編とは大幅に異なります。

花咲つぼみ 14歳

親もとを離れ祖母と暮らしている。少し内気だが明るい少女。将来の夢は自分の咲かせた花を沢山の人に見せる事、しかしある事が原因で諦めてしまう。異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアブロッサム。

来海えりか 13歳

家は服屋で姉のももかはモデル。

いつもテンション高い。姉に嫉妬してるが将来の夢は姉に似合う最高の服を作る事。

異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアマリン。

明堂院いつき 14歳

空手を習っており、将来の夢は世界一の空手家になることだが最近スランプになっている。異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアサンシャイン。

月影ゆり 14歳

つぼみ、えりか、いつきにとって姉のような存在。

成績優秀で天才と言われている。将来の夢は有名な大学に入学する

事だが天才という言葉はあまり好んでいない。

異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアムーンライト。

美墨なぎさ 20歳

タコカフェで師匠であるアカネの所で修業をしている。

異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアブラック。

雪城ほのか 20歳

なぎさの幼なじみ。

タコカフェの店員である。

異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアホワイト。

九条ひかり 19歳

なぎさとほのかの幼なじみ。

タコカフェでバイトをしている。

異世界では伝説のクイーンの生命・シャイニールミナスであるが今作ではれっきとした人間である。

日向咲 20歳

両親の店パンパカパンで働いている。

異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアブルーム（ブライト）

美翔舞 20歳

パンパカパンでアルバイトをしている、咲とは中学からの親友。

異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアイーグレット（ウィンデ

イ)

夢原のぞみ 20歳

教育大学の生徒である、教師になるため勉学に励んでいる。
異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアドリーム。

夏木りん 20歳

のぞみの良き親友。
アクセサリーショップ・ナッツハウスの従業員。異世界では伝説の
戦士プリキュア・キュアルージュ。

春日野うらら 19歳

人気アイドル。
のぞみ達と交流がありよく悩みなどをきいてもらっている。
異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアレモネード。

秋元こまち 21歳

のぞみ達の先輩。
少し名のある小説家である。
異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアミント。

水無月かれん 21歳

大富豪の娘。
医療大学の学生。
こまち同様のぞみ達の先輩にあたる。

異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアアクア。

美々野くるみ 20歳

のぞみ達の親友。

いつでも自分に自信を持っている。

ナッツハウスでりんと共に働いている。

異世界では青い薔薇の戦士・ミルクイローズであり妖精ミルクだが
ひかり同様今作ではれっきとした人間である。

桃園ラブ 19歳

大人気ダンスグループ・クローバーのリーダーである。

異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアピーチ。

蒼乃美希 19歳

モデルでありクローバーのサブリーダーである。

異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアベリー。

山吹祈里 19歳

獣医の玉子でありクローバーの一員である。

異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアパイン。

東せつな 19歳

両親が事故で他界しラブと一緒に暮らしている。

クローバーの一員である。

異世界では伝説の戦士プリキュア・キュアパッションでありラビリ

ンスのイースだが今作ではれっきとした人間である。

北条響 14歳

南野奏 14歳

黒川エレン 14歳

調辺アコ 9歳

白い服を着た少年に導かれプリキュアのいる世界からやって来た。

主要登場人物紹介（後書き）

サブ登場人物紹介、本編説明の後本編に入ります。

サブ登場人物紹介

アカネ

タコカフェの店主

キリヤ

ほのかの彼氏。

異世界ではドックゾーンのダークファイブのメンバーだが今作ではれっきとした人間であり、善人である。

霧生満

霧生薫

姉妹であり咲達の親友。

異世界ではダークフォールのメンバーであり最後にプリキュア？になったが今作ではれっきとした人間である。

小々田コージ

ナッツハウスの副店長。

のぞみに恋心を抱かれているが気づいていない。

異世界ではパルミエ王国の妖精・ココだが今作ではれっきとした人間である。

夏

ナッツハウスの店長。

こまちに恋心を抱かれているが気づいていない。
異世界ではパルミエ王国の妖精・ナッツだが今作ではれっきとした人間である。

シロー

ナッツハウスの従業員。

うららの彼氏。

異世界では妖精・シロップだが今作ではれっきとした人間である。

カオル

ドーナツ屋の店主。

ミユキ

クローバーの師匠的存在である。

薰子

つぼみの祖母。

つぼみの憧れでもある。

異世界では50年前は伝説の戦士プリキュア・キュアフラワー。

その他妖精も出演

サブ登場人物紹介（後書き）

次は本編設定

本編設定

1999年『ふたりはプリキュアMAXheart』が放送。後に『ふたりはプリキュアSS』

『YES!プリキュア5GOGO』

『フレッシュプリキュア!』

が放送されプリキュアシリーズは終了。

映画では『プリキュアオールスターズDXみんな友達奇跡の全員大集合』がロードショーされている。

物語の舞台は2011年、プリキュアはTVでしか存在しない世界。

本編で妖精だった者は元かられっきとした人間である。

本編とは大幅に設定が異なりますがご了承ください、では大決戦！超プリキュアオールスターズ〜目覚める伝説の戦士〜お楽しみください。

本編設定（後書き）

次回から物語執筆開始。

ですが受験が一週間をきったので投稿はスローペースです。

1999年の夢

1999年…

『昔々…というのは大げさですね。』

それは今未来へ羽ばたこうとしている若者が様々な夢を持ち始めた時代…』

4人の少女達が楽しそうに公園で遊んでいた。

おままごとや人形遊び…

その少女達はドーナツ屋に行った。

「カオルちゃん！！ドーナツください！！」

カオル「おっ！つぼみちゃんにえりかちゃん、いつきちゃんにゆりちゃん来てくれたんだね？」

……

えりか「おいしい！！」

つぼみ「やっぱりカオルちゃんのドーナツはおいしいです！」

いつき「……あっ！！カオルちゃん、今何時？」

カオル「今かい？今…6時ちょい前！！」

ゆり「た、大変じゃない！！」

カオル「どうしたんだい？そんなに慌てて…」

つぼみ「明日からプリキュアが始まるんです!！」

いつき「だから今日はつぼみちゃんのお家にお泊まりするの!！」

えりか「早起きしてみんなで見るんだあ〜」

ゆり「早くしないと寝坊しちゃうわよ!！」

4人は慌ててつぼみの家に向かった。

カオル「プリキュア?…」

カオルは何故か妙に嬉しそうに屋台に戻って行った。

……

翌日 AM 8:25

つぼみ達「……………」

つぼみの父「おはようさん……な、なんだ?なんでつぼみ達TV
仰視してんだ?」

つぼみの母「始まるみたいよ、前から騒いでたやつ。」

つぼみの父「ああ、なんか騒いでたな。」

……

AM 8 : 29

つぼみ達「……………」

AM 8 : 30

『マックスハクト！！プリ・キュア！！プリ・キュア！！』

つぼみ達「始まったあー！！」

『デュアルオーロラウェーブ！！』

いつき「スゴイ！！」

ゆり「かっこいい！！」

『プリキュア！！マーブルスクリュー！！マックスウウウ！！』

『ザケンナアア！？』

えりか「やったあー！！」

つぼみ「プリキュアかっこいいですー！！」

……………

『プリキュアが初めてテレビに登場した時、私達はとても大きな夢と希望をもらいました。』

つぼみ『夢や希望を捨てなければ必ずプリキュアが来てくれます！』

『そして私達は出会いました、白い服を着た不思議な少年に。』

えりか「見て見て！！この服の絵可愛くない？」

いつき「素敵だよ！！」

つぼみ「すごいです・・・？」

つぼみがふと横を見ると、そこには白い服の少年が立っていた。

つぼみ「あなた・・・お名前は？」

少年「・・・」

つぼみ「一緒に遊びませんか？」

少年「・・・うん。」

つぼみ達は少年と共に鬼ごっこで走り回っていた。

いつき「あつ、見て！！流れ星！！」

ゆり「そういえば今日たくさん流れ星が降るって言ってたわ。」

えりか「可愛い服を作れますように！！」

つぼみ「私の咲かせた花を沢山の人に見てもらえますように！！」

いつき「世界中の人に見てもらおうの?」

つぼみ「いいえ、もっともっと沢山の人達です。プリキュアにも見てもらいます!」

少年「・・・」

つぼみ「あなたも何か願いを言いませんか?」

つぼみがそう言つと少年は両手を組み願いを言う。

『それきり少年とは会わなくなり私達はプリキュアの夢と希望を忘れ、すっかり夢見ていたお姉さんになっていました。』

2011年…

つぼみ「ひええ!!遅刻ですう!?!」

つぼみはすっかり中学2年生になり制服を着て通学路を全力疾走していた。

『タコカフェ』

つぼみ「なぎささん!!おはようございます!」

なぎさ「あつ、おはようつぼみ!!何よまた遅刻?」

つぼみ「目覚まし壊れてて・・・ああ時間が無い!?!では!」

なぎさ「がんばりなさいよ!」

ほのか「なぎさ、今の誰?」

ひかり「慌ててたみたいですが・・・」

なぎさ「ああ、つぼみよつぼみ。」

アカネ「こらなぎさ!! たこ焼き焦げてるわよ!」

なぎさ「げげっ!? ヤバい!」

・・・

『パンパカパン』

つぼみ「咲さん!! 舞さん!! おはようございます!」

咲「つぼみちゃん!! これいつもの!」

咲は袋に詰めたパンをつぼみに渡した。

つぼみ「ありがとうございます!」

舞「頑張ってね!」

・・・

『ナッツハウス』

つぼみ「みなさん!!おはようございます!!」

ナッツハウスには久々にのぞみ、りん、うらら、こまち、かれん、くるみが揃っていた。

のぞみ「ファイトだよつぼみちゃん!!」

.....

『公園』

つぼみ「クローバーのみなさん!!おはようございます!!」

ラブ「あっ!!つぼみちゃん!!頑張つて!!」

.....

つぼみは汗だくで学校にたどり着いた。

つぼみ「すみません!!遅刻しま...した?」

しかしクラスの生徒に目もくれず窓に集まり外を見ていた。

つぼみ「あの...みなさん?...えりか、どうしたんです?」

えりか「ああ、つぼみ。空見てよ。」

つぼみ「空?...な、なんですかあれ!？」

.....

別のクラスではいつきとゆりが空を見ていた。

いつき「ゆり、あれって……」

ゆり「ええ、蜃気楼だわ。」

空には破壊された街の風景のような蜃気楼が浮かび上がっていた。

つぼみ「……!!」

するとつぼみはいつの間にか蜃気楼の光景と酷似した場所にいた。

つぼみ「こ、ここは……」

「ザケンナアア!!」

「コワイナアア!!」

つぼみ「!?!」

つぼみは不気味な雄叫びがする場所を見た、そこにはどこか懐かしい怪物がいた。

つぼみ「か、怪物!?!」

そしてつぼみの背後から眩い光が放たれた。
つぼみは振り返った。

つぼみ「プ、プリキュア?」

そこには見たことのないプリキュアがいた、そして再び光が放たれたるとそこには大勢のプリキュアがいた。

つぼみ「一体・・・どうなって・・・」

大決戦！！超プリキュアオールスターズ〜目覚める伝説の戦士〜

1999年の夢（後書き）

どうでしょうか？

「パクリヤン」と思う人もいるかもしれませんがよろしく願います。

叶えなかった夢

つぼみは再び見覚えの無い場所にいた、少しさまよっていると…

???「ほのか!! ひかり!! 行くよ!!」

つぼみ「?、なぎささんにほのかさん、ひかりさん?」

「デュアルオーロラウェーブ!!」

「ルミナスシャイニングストリーム!!」

つぼみ「!!」

するとつぼみは瞬時に様々な場所に移動させられる。

「デュアルスピリチュアルパワー!!」

「プリキュア!! メタモルフォーゼ!!」

「スカイローズ・トランスレイト!!」

「チェインジ!! プリキュア・ビートアップ!!」

つぼみ「そんな…」

「あなたの思い通りにはさせない!!」

つぼみ「あ…」

.....

つぼみ「プ、プリキュアです!？」

しかし、気づけばそこはなんの変哲もないいつも通りの教室、そして授業風景が広がっていた。

つぼみの言葉に笑いが起こる。

つぼみ「あ・・・え？」

担任「花咲、遅刻のうえ居眠りとは・・・いい度胸ね？」

つぼみ「す、すみません!！」

ハハハハハハ!!

.....

『数日後、妙な曇気楼は消え、またいつも通りの生活に戻りました、私は出身の幼稚園に花についてお話をしていました。』

つぼみ「これはひまわり、太陽に反応してその太陽の方向を向くんです。」

園児「わかんない。」

園児「ねえねえチューリップは？」

つぼみ「えつとチューリップは・・・」

園児「アサガオさんはあ？」

園児「ねえねえイチゴのお花ってどんなのお？」

つぼみは園児達に囲まれ質問の嵐だった。

つぼみ「えつと・・・その・・・あ!！」

つぼみはふと外に目を運ぶとそこには祖母・薫子がいた。

・・・

薫子「つぼみ、お疲れ様。」

つぼみ「ありがとうございます、おばあちゃん。」

薫子は缶ジュースをつぼみに渡した。

薫子「どうしたの？こんな事で疲れるようなつぼみじゃないはずよ？」

つぼみ「いえ、最近変な夢を見てしまっんです。」

薫子「どんな夢？」

つぼみ「えつと・・・」

・・・

『パンパカパン』

えりか、いつき、ゆり「なぎささん達がプリキュアに!？」

つぼみ「・・・はい。」

咲「ほい、新作のパン!! 4人共試食してくれるから助か・・・」

つぼみ(じー・・・)

・・・

「デュアルスピリチュアルパワー!!」

・・・

咲「どうしたの？」

つぼみ「えっ、いや・・・」

舞「ちよつと咲!?! パン焦げちゃう!!」

咲「ああ!?! ごめんごめん!?!」

咲はキッチンに戻った。

えりか「どうしたのつぼみ？」

いつき「まさか・・・」

つぼみ「・・・咲さん達が・・・ふたりはプリキュアスプラッシュスターに変身しました。」

つぼみは少し笑いながら答えた。

えりか「プ・リ・キュ・ア　って?」

いつき「あははは!!」

つぼみ「それだけじゃないんです、ナッツハウスによく集まるのぞみさん達6人がプリキュア5gogoに・・・クローバーのラブさん達がフレッシュプリキュアに。」

ゆり「つぼみ、あなた大丈夫?」

いつき「そういえば前もプリキュアを見たって言ってたよね。」

つぼみ「確かに見たんです、TVでは一度も見事がないプリキュアの姿を。」

つぼみは不思議な空間で見たプリキュアの姿を思い出した。

つぼみ「ですが、私はそのプリキュアをよく知っている気がしたんです。」

.....

休日、つぼみは街を歩いていた。

つぼみ「.....?」

するとつぼみはまたしても不思議な空間にいた。

つぼみ「ま、また・・・」

ふと振り返るとそこには信じられない光景があった。暗黒に包まれた空には宇宙をも飲み込む邪悪な生命体、それに思いを込めて希望の力をぶつける女の戦士たち。

つぼみ「が、頑張ってください!!」

女の戦士たち「はあああああ!!」

邪悪な生命体「馬鹿なああああ!!」

つぼみ「や、やったあ!!」

すると

????「君だね？」

つぼみ「えっ？」

つぼみは振り返った、そこには4人の女がいた。

????「私達を応援してくれたのは。」

.....

そして気がつくにつぼみは元の空間に戻っていた。

つぼみ「今のは……」

つぼみはふと目をやると建物ではラジオのニュースの生放送をやっていた。

アナウンサー「ではここで、日本在中のアメリカの科学者、ブンビーさんに話を伺います。ブンビーさん、先日出現した屋気楼をどのように思われますか？」

ブンビー「そうですね、これはあくまで私の推測ですが、世界の終わりを予言させるものではないでしょうか？はい。」

つぼみ「世界の……終わり……」

つぼみは何か胸騒ぎがした。

……

えりか「つぼみのせいで私まで変な夢見ちゃったよ。」

つぼみ「えっ？」

えりか「私がプリキュアになるんだよ、確か名前は……キュアマリンだったかな。」

ゆり「あら、あなたも？」

いつき「じゃあゆりやえりかも？」

つぼみ「いつきも見たんですか!？」

いつき「僕はキュアサンシャインっていうプリキュアに変身するんだ。」

ゆり「私はキュアムーンライトっていうプリキュアになったわ。」

えりか「すごい偶然だね。」

するとつぼみが切り出した。

つぼみ「もしかして・・・偶然じゃないかもしれないですよ!！」

3人「えっ?」

つぼみ「ゆりは覚えてます?一緒にTVで見たやつですよ!！」

ゆり「もしかして、パラレルワールドの事?」

えりか「な、何それ?」

いつき「自分と全く同じ人間が違う世界で暮らしてるっていう仮説だよ。」

つぼみ「その世界ではなぎささん達はプリキュアかもしれません!えりかやいつきやゆりも!！」

しかし3人は苦笑し始めた。

ゆり「つぼみ、あなた大丈夫?」

いつき「僕たちが伝説の戦士なわけないだろ？」

えりか「そつだよ。」

つぼみ「あ・・・あははは、そつですよね、所詮夢は夢ですよね。」

・・・

7年前

つぼみ「どうして・・・どうして枯れてしまっんですか？」

つぼみは自分の花を咲かせるために懸命になっていた、しかしどうあがいても花は枯れてしまっ。

つぼみ「夢は・・・夢だったんでしょうか。」

・・・

えりか、いつき、ゆりも同様の経験をしていた。

来海えりか

彼女はデザイナーを目指していた、モデルである姉・ももかに似合う衣装を作るために、しかし

ももか「あなたの衣装は、心がこもってない、私はその衣装は着れないわ。」

えりか「そんな・・・」

明堂院いつき

小さい頃から空手を経験しており、様々な大会で優勝してきたが・

いつき「はぁ!!」

「だぁ!!」

いつき「!?!」

中学生になつてからは誰にも勝てなくなっていた、自分でも空手がなんなのかわからなくなるくらい。

月影ゆり

彼女は周りから天才と言われていた。
自分でもそれを誇りに思っていたが・・・

「ゆりは本当に天才!!」

「やっぱりあの学校に行くんだろ?」

周りからかけられるプレッシャーに耐えられなかった、いつしか天才という言葉を嫌うようになった。

.....

つぼみ（私達は夢を叶えられなかった、いや・・・叶えなかったんですよね。）

つづく

叶えなかった夢（後書き）

次回は、色んなサブキャラ登場

友人

『パンパカパン』

つぼみ達はパンパカパンで新作のパンを試食していた。

えりか「うわあ、おいしかったあ。」

すると

咲「みんな、これから時間ある？」

いつき「あ、はい。」

ゆり「どうしたんですか？」

舞「今日はお店は早仕舞い!!！」

つぼみ「あ、今日はその日ですか。」

3人「ああ、あの日ね!!！」

そこに

????「咲!!!舞!!！」

????「久しぶり!!！」

咲「満!!!薫!!！」

咲と舞の親友満と薫がパンパカパンを訪れた、するとぞくぞくと

なぎさ「おっすー!!」

ひかり「お久しぶりです。」

舞「あれ？ほのかは？」

そして後から

ほのか「久しぶり〜」

????「お久しぶりです。」

ほのかは彼氏であるキリヤと来た。

えりか「うわお〜、彼氏のキリヤさんも連れて来た〜、ほのかさんラブラブ」

ほのか「か、からかわないでよ!!」

キリヤ「ほのか落ち着いて。」

.....

のぞみ「パンパカパンの特製メロンパンくださあい」

りん「はしゃぐな!!」

ナッツハウスのメンバーも来た。

「????」ちよつと押すなよ!!

「うらら」良いじゃんシロー

「こまち」お久しぶり。

「かれん」みんな元気そうね。

「くるみ」ふたり共早くはいりましょうよ!!

ナツツハウスの店長、副店長であるコージと夏、そしてうららの彼氏シローが来た。

「コージ」いやあ、懐かしいなあ。

夏「店内も騒がしいな。」

.....

ラブ「イエーイ!! 幸せゲットだよ!!」

美希「もうラブったら。」

祈里「あら?」

せつな「私達が最後?」

「????」だからもっと早くって言ったのにラブが昏倒してるから。」

ラブ「ミユキさん(涙)」

ダンスチーム・クローバーの生みの親であるミユキもラブ達と来た。

.....

メンバーが揃ったところでゴージ、夏、シロー、キリヤ、満、薫、ミユキは先に出発し、残ったみなは数分後ある所へ向かった。

りん「ほのかさんはラブラブで良いなあ」

ほのか「だからからかわないですよ!！」

うすら「うわぁ、照れてます」

咲「そういうすらもシローとラブラブだよ」

うすら「当然です!！」

それを羨ましそうに見ていたのぞみとこまちに

舞「ちよつとふたり共、告白なら到着した時だよ」(小声)

のぞみ「なっ!えっ!?!」

こまち「何を言って・・・」

かれん「あら顔が赤いわよ?」

くるみ「このチャンスを逃したらもったいないわ。」

美希「直球が大事よ。」

せつな「野球でもするの?」

ラブ「いや違うよせつな(汗)」

つぼみ「みなさん楽しそうですね。」

そこに

なぎさ「んで、つぼみは自分の夢はどつなの?」

つぼみ「夢?」

なぎさ「お花咲かせるんでしょ?」

つぼみ「いや、今は・・・休んで・・・きやつ!」?

ついでにそうになるつぼみ。

えりか「何こけてんのよ。」

いつき「動揺しすぎ。」

ゆり「まあ気持ちはわからなくもないけど。」

一同がある道にさしかかった時、その一同を睨みつける不気味な存在がいた。

????「ふふふ・・・」

不気味な存在は手から黒く小さな竜巻を起こし周辺に撒き散らした。そして竜巻は周辺の人々に危害を加えた。

「きゃああー！」

「うわあ！？」

竜巻により吹き飛ばされる子供。

竜巻により気絶し車を暴走させる人。さらに竜巻により建物の屋上から大量の鉄パイプが落下する、その真下には集団下校する小学生達が出た。

なぎさ「危ない！？」

するとつぼみが夢でプリキュアに変身したなぎさ達がとんでもない反射神経で人々を救出に向かった。

なぎさ「ほのか！！ひかり！！」

ほのか「わかってる！！」

ひかり「はい！！」

咲「舞！」

舞「うん！！」

なぎさ、ほのか、ひかり、咲、舞は竜巻により吹き飛ばされた子供達を受け止めた。

のぞみ「みんな！！」

りん「OK!!」

うらら「はい!!」

こまち「わかったわ!!」

かれん「くるみ!!」

くるみ「当然!!」

6人は落下する鉄パイプの真下にいる小学生達を全員抱きかかえてその場から離れる。

鉄パイプが地面に落ちコンクリートを砕く。

ラブ「みんな!!」

美希「ええ!!」

祈里「助かるって信じてる!!」

せつな「行くわよ!!」

4人は車に間一髪乗り込み運転手のシートベルトを外すが運転手はかなり大柄でとてもどかさ事ができない、そして目の前にはどんどん大きくなる建物があった。

美希「このままじゃぶつかる!？」

ラブ「ブッキー!!せつな!!端っこで伏せて!!美希たん力貸して!!」

ラブと美希はハンドルを目一杯回し車を回転させ建物の衝突を回避、
変わりに近くにあった木にぶつかる、その衝撃で運転手の足がアク
セルから離れ車は止まった。間一髪運転手を含めたラブ達は無傷で
すんだ。

ラブ「し、死ぬかと思った〜・・・」

いつき「す、すごい・・・」

えりか「まじ?」

ゆり「信じられない。」

つぼみは再びあの夢とパラレルワールドを思い出した。

つぼみ「夢とパラレルワールド・・・本当かもしれない・・・」

・・・

騒動はあったが何とか終わり一同はあるステージが設置されたレス
トランに到着した。

「それでは!!!ダンスチーム・クローバーによるダンス発表会です
!!!演奏、歌はクローバーのメンバーの友人により行われます!!!
ではお楽しみください!!!」

キリヤ、満、薫、コージ、夏、シローは楽器で演奏を始め、なぎさ、
ほのか、ひかり、咲、舞、のぞみ、りん、うらら、こまち、かれん、
くるみは歌を歌い、クローバーはミュキと共に踊り始めた。

会場の人々「」

つぼみ達もそのダンスに気分がノリノリである、そしてつぼみはあ
る事を思った。

つぼみ「やっぱり・・・そんな事ないですね。」

つづく

友人（後書き）

次回ようやくあの4人登場

かつての憧れ

つぼみは再び幼稚園児に花の説明をしていた。

園児「アジサイって味がするのぉ?」

園児「ドライフラワーってなぁに?」

相変わらずの質問の嵐だった。

つぼみ「ひ、ひとりずつ・・・ひとりずつ質問を・・・?」

しかし気づくと周りには園児が消え自分一人になっていた。

つぼみ「え・・・みんなどこに・・・」

そして

「ザケンナアアア!!」

つぼみ「!?!」

つぼみは外に出た、そこには見覚えのある巨大生物がいた。

つぼみ「か、怪物!?!」

ザケンナー「ザケンナアアア!!」

つぼみ「ザ、ザケンナー!?!」

ザケンナーは周辺の建物を破壊し始める。

つぼみ「きゃあ!？」

つぼみは腰が抜け動けなくなってしまった。

ザケンナー「ザケンナーアアア!!」

つぼみ「ゆ、夢なら・・・早く覚めてください!!」

その時、つぼみの目の前から眩い光が発せられた。

つぼみ「えっ!？」

その光からは不思議な衣装を着た4人の少女がいた。

つぼみ「ま、まさか・・・」

「爪弾くは荒ぶる調べ!!キユアメロディー!!」

「爪弾くはたおやかな調べ!!キユアリズム!!」

つぼみ「間違いありません、あれは・・・」

「爪弾くは魂の調べ!!キユアビート!!」

「爪弾くは女神の調べ!!キユアミューズ!!」

「届け!!4人の組曲!!スイートプリキュア!!」

つぼみ「本物のプリキュア!!」

スイートプリキュアと名乗る4人の少女はザケンナーに飛びかかった。

メロディー「はぁ!!」

メロディーはザケンナーの腹を殴りつけひるんだところをリズムが飛び上がりザケンナーを蹴り倒す。

リズム「やぁ!!」

ビート「ミュージズ!!」

ミュージズ「うん!!」

ビートはラブギターロッドを取り出しビートソニックを放つ、ミュージズはビートソニックで放たれる音符に捕まりザケンナーに近く。

ミュージズ「だぁ!!」

ビートソニックの勢いでミュージズの蹴りはザケンナーを直撃、かなりの距離を飛ばされた。

メロディー「一気にたたみかけるよ!!」

リズム、ビート、ミュージズ「わかった!!」

4人はザケンナーに向かって再び飛びかかった。

しかし、ザケンナーは突如形を変えた。

メロディー「何!?!」

ザケンナーはナキワメーケに変身した。

つぼみ「あれはナキワメーケ・・・たしか、オーリーがフレッシュ
ユプリキュアにゲスト出演した時の・・・」

リズム「姿なんて関係ない!!!」

ビート「行くわよ!!!」

そのナキワメーケは膨れ上がった風呂敷に様々なお面がつけてあつた。

そのお面の目が突然赤く光り衝撃波を放つ。

スイートプリキュア「きゃあああああ!?!」

スイートプリキュアは吹き飛ばされる。

つぼみ「プリキュアが・・・」

ミュージズ「意外とやるわね・・・」

ビート「別方向からそれぞれ攻撃しましょう!!!」

リズム「OK!!!」

メロディー「いくよ!!!」

メロディー達は素早く別々に別れ移動しナキワメーケを錯乱させ攻撃しようとする。

しかし、ナキワメーケはまるで全て見えているようにメロディー達をなぎ倒していく。

メロディー「くっ、なんで私達の行動が全部読まれてるの!？」

リズム「これじゃあ攻撃出来ない・・・」

ナキワメーケはプリキュアをさらに攻撃する。

スイートプリキュア「きゃあああああ!？」

つぼみ「ど、どうすれば・・・あっ!！」

つぼみはかすかな記憶を思い出した。

あの時、フレッシユプリキュアはどうやってこの危機をのりこえたのか。

メロディー「まずいよ、このままじゃ・・・」

つぼみ「怪物さん!！」

つぼみはナキワメーケを呼んだ。

リズム「あ、あれは!？」

つぼみ「今です!！」

ビート「そ、そうだ、意識があの子に行ってる間に!」

ミューズ「一気に行こう!」

メロディー「う、うん!」

メロディー達は不思議な箱を取り出した。

「出でよ、全ての音の源よ。」

すると不思議な箱から翼を広げた宝石のような妖精?が現れプリキュア達はその妖精?で身を包む。

メロディー「届けましょう、希望のシンフォニー!」

「プリキュア!スウィートセッションアンサンブル・クレッシェンド!」

エネルギーに身を包むプリキュア、そのままナキワメーケに直撃しプリキュアは着地した。

「ファイナーレ!」

ナキワメーケは浄化され消えた。

つばみ「やった!...あ。」

しかし、つばみはまだ戸惑っていた、何故ならテレビの中の存在であるプリキュアが目の前にいるからだ。

メロディー「つぼみちゃんだよね？」

つぼみ「えっ？」

つぼみは驚いた。

何故プリキュアが自分の事を知っているのか。

つぼみ「あなたがたは誰なんですか？」

.....

そして気がつくのと破壊された建物などが元通りになっておりいなかったはずの人々が当たり前のように歩いていた。

つぼみ「元の空間に・・・ってああ!？」

ただ違ったのは、プリキュアが元の空間にいた。
そしてプリキュアの周りには園児達がいた。

園児「かわいいお洋服だねえ!!！」

園児「何でこんな格好してるのお？」

メロディー「えっ、あの!？」

リズム「ごめんね!!今忙しいから!!！」

ビート「ちょっと引つ張らないで!？」

ミューズ「どうすんのこの状況!？」

つぼみ「た、大変です!？」

つぼみが園児達からプリキュアを引き離しとりあえず人気のない場所
所に連れて行った。

・・・

プリキュアは変身を解き、元の姿に戻った。

響「本当に私達の事知らないの？」

つぼみ「はい、多分この間まで私はあなた達の世界に度々入り込んで
ましたが今度はあなた達が私の住む世界に迷い込んだ・・・プリ
キュアがいる事も驚きました。」

エレン「え・・・何故？」

つぼみ「あなた達の世界だとプリキュアは正義のヒーローとして存
在してるかもしれませんが・・・この世界は違うんです、プリキュ
アもさっきの怪物も空想の存在で・・・物語の中にしかない世界・
・・・なんです。」

4人は少し残念がった表情を表した。

当然だろう、今までプリキュアはあらゆる世界を救ってきたがその
正義のヒーローが存在しないというのだから。

アコ「・・・そうだ!！」

アコが何かを思い出した。

アコ「私達、不思議な気配を感じてある屋敷に行ったの。」

.....

アコ達は自分達に何があつたか説明しだした。

響「そうそう、で気配を感じる方向に向かったら.....」

奏「不思議な少年に出会つたの。」

エレン「白い服を着た少年に。」

つぼみ「白い服の少年？」

アコ「その少年に言われたの。」

(今、侵略者が僕の大事な世界を支配しようとしているんだ.....
その世界の伝説の戦士を目覚めさせ、世界を救って。)

.....

つぼみは「白い服を着た少年」という言葉に何か引つかった。

そして伝説の戦士に匹敵した人物が頭に浮かんだ。

つぼみ「もしかしたら.....ついてきてください!!!伝説の戦士になる人物を私は知ってるかもしれない!!!」

響達はつぼみの発言に驚き期待の表情を表した。

U, U, U

夢を捨てない者

テレビでは先日出た屋気楼についての放送がされていた。

『タコカフェ』

ほのか「なんか不気味ね。」

ひかり「まさか世界がああの屋気楼みたいになるんじゃない？」

そこになぎさが切り出した。

なぎさ「大丈夫大丈夫、もしもの時はきっと来てくれるよ。」

なぎさはほのかとひかりの肩に手を回す。

ほのか「来てくれるって……」

ひかり「誰がですか？」

なぎさ「伝説の戦士ってやつ？」

そこに

つぼみ「こんにちは。」

つぼみが響達を連れてきた。

なぎさ「ああ、つぼみ……その子達は？」

つぼみ「じ、実は・・・」

するといきなり

響「なぎさー!!」

響がなぎさに駆け寄る。

奏「ちよつ!?!」

エレン「ああ・・・」

アコ「心配事が早速・・・」

なぎさ「ちよつと、あなた誰？」

響「どうしちゃったの? いつそんな大人っぽくなっちゃったの!?
それにほのかやひかりも!!」

ほのか「大人っぽくって・・・」

ひかり「なぎささんとほのかさんは20歳ですし私は19歳で・・・」

響「ええ!?!」

つぼみが響を掴みだした。

つぼみ「すみませんなぎささん!! 知り合いになぎささん達と瓜二

つの人達がいるらしくて・・・次、行きましようか・・・」

なぎさ「ち、ちょっと引つ張ら・・・」

なぎさ達はただ啞然とするしかなかった。

・・・

『パンパカパン』

響「咲！舞！！」

つぼみ「ちよっ・・・」

咲「え・・・と・・・」

舞「どちらさまですか？」

響「何言ってるのさ！！私の顔を良く見て！！」

咲、舞「・・・」

響がどんな決め顔をして当然咲と舞にはわからない。

・・・

『ナッツハウス』

コージ「りん、また新作かい？」

りん「はい、急にインスピレーションが働いて…」

のぞみ「すっごい…!」

うらら「そのアクセサリー、私の今度のライブで付けたいです…!」

夏「何を言ってるんだ、店の商品だぞ?」

りん「大丈夫ですよ、何個か作るので…」

こまち「あら?あれはつぼみさん?」

かれん「そうね、一緒にいる人達はお友達かしら?」

くるみ「妙に落ち込んでるけど?」

こまちは知らない4人と話しているつぼみを見つけた。
そして

シロー「おゝい、何やってんだ?」

つぼみ「良いですね、今度は慎重に…あ、シローさ…」

だがやはり恐れていた事が起こった。

響「シロップ…!」

シロー「な、なんだよ、ていつかシロップって何だよ…?」

のぞみ「どうしたの?」

のぞみ達がナッツハウスから出てきた。

響「うわぁ！？み、みんながお、大人に…」

奏とエレンが必死に響の口を押さえた。

アコ「呆れた。」

つぼみ「はぁ…」

.....

『公園』

響「ラブ！？みんな揃って大人！？」

公園でダンスの練習をしているクローバーを見つけた響。

ミュキ「ラブ、知り合い？」

ラブ「む……」

ラブは響をじっと凝視し…

ラブ「わかんない!!」

つぼみ「（やっぱし…）し、失礼しました!!」

つぼみは響を引っ張り出した。

響「私だよ！！メロディーの響だよぉ！！」

.....

響「なぎさや咲、のぞみやラブは勇敢なプリキュアだよ！！でも……」

奏「この世界じゃ…普通の人だったね。」

エレン「伝説の戦士はわかったけど目覚めさせる方法がわかんないわね。」

アコ「響の取り乱す気持ちは確かにわからなくはないけどね。」

するとつぼみが

つぼみ「だ、大丈夫ですよ…あの人はこの世界でも憧れられる存在ですから。……夢を捨てないというか……いつまでも希望を持ち続けてるといふか……だからきつと大丈夫ですよ！！」

響「つぼみ……やっぱりどの世界のつぼみもかわんないね。」

つぼみ「どういふ事ですか？」

響「つぼみも私達の世界だと……！！？」

響達は妙な気配を感じ取った。

つぼみ「どうしたんで……！！？」

すると町には黒い竜巻が発生していた。

くじく

生きた死

黒い竜巻は消えたと同時に怪物が現れた。

つぼみ「怪物！！・・・確か・・・あれはウザイナー！！」

ウザイナー「ウザイナー！！」

ウザイナーは街を破壊し始める。

人々「うわああああ！！？」

つぼみ「でもどうして！？私達の住む世界に・・・本物の怪物はいないはずなのに！？」

響「きつと、何か呼び寄せたんだよ。」

奏「その何かがこの世界を滅ぼそうとしてるんだわ。」

ウザイナーは次々に街を破壊していく。

エレン「このままじゃ街の人々が危ないわ！！」

アコ「戦わないと！！」

つぼみ「い、いくんですね？」

響「うん！！」

すると

「????「みんな〜!」」

奏「あれ、ハミィ!」

響達の妖精・ハミィがこちらに近づいてくる。

つぼみ「よ、妖精!」

ハミィ「はニヤ?つぼみかニヤ?」

エレン「今はそれどころじゃないでしょ!?!今までどこに行ってたのよ!」

ハミィ「セイレーン達とは違うところに飛ばされてたニヤ。」

アコ「もう今は良いでしょ!?!変身よ変身!」

響達は慌ててキュアモジュールを取り出した。

そしてキュアモジュールにフェアリートーンと呼ばれる宝石型の妖精がはめ込まれる。

「レッツプレイ!!プリキュア・モジュレーション!!」

4人は4色の衣に包まれ姿を変えた。

メロディー「爪弾くは荒ぶる調べ!!キュアメロディー!!」

リズム「爪弾くはたおやかな調べ!!キュアリズム!!」

ビート「爪弾くは魂の調べ！！キュアビート！！」

ミューズ「爪弾くは女神の調べ！！キュアミューズ！！」

「届け！！4人の組曲！！スイートプリキュア！！」

メロディー達はウザイナーを押し倒す。

そして建物の屋上に着地し身構える。

.....

その光景はテレビで生中継されていた。

キャスター「信じられない光景です、突如巨大生物と不思議な衣装を着た少女達が現れ戦っています。これは過去にテレビ放送されたプリキュアに酷似しています。」

『タコカフェ』

ほか「怪物に.....」

ひかり「女の子？」

なぎさ「一体何が起こってるの？」

.....

ビート「はっ！..!」

ビートはウザイナーの腕を蹴りつける。

ミュージズ「ええい!!」

ミュージズはウザイナーのもう片方の腕を蹴りつける。

メロディー「リズム!! 一気に決めるよ!!」

リズム「OK!!」

メロディーとリズムは必殺技の体勢にはいる。
しかし

ウザイナー「ウザイナアアア!!」

ウザイナーは口から光線を放った。

メロディー「ええ!!」

リズム「きゃあ!!」

メロディーとリズムは吹き飛ばされた。

そしてビートとミュージズはウザイナーに掴まれてしまった。

ビート「きゃあ!!」

ミュージズ「うう!!」

ハミィ「だだだだ大ピンチだニャアアア!!」

つぼみ「このままじゃ・・・」

ウザイナーはビートとミューズを掴みながら辺りを破壊していく。

・・・

えりか「ちょっと何なのよあれ!？」

いつき「えりか落ち着いて!!」

ゆり「今は逃げる事が優先よ!!」

しかし破壊された建物がえりか達に落ちてきた。

えりか「うわああ!？」

えりか達はそれを何とか回避、避難所に向かう。

いつき「つぼみはこんな時に何を・・・」

ゆり「つぼみなら一人でも大丈夫!!」

・・・

『ナッツハウス』

のぞみ「コ、コージさんは!？」

うすら「さっきアクセサリーの材料を買いにお店へ!」

シロー「その店って確か!?!」

こまち「今怪物が暴れてる所の近くよ!?!」

のぞみ「わ、私行ってくる!?!」

りん「ちよつとのぞみ!?!」

.....

その頃コージは店を出て避難するところだった。

???'「うわあ!?!」

コージ「!?!」

コージの後ろでは足をくじいた老人が倒れていた。

コージはその老人に駆け寄る。

コージ「大丈夫ですか!?!」

しかし、その時ウザイナーは建物を破壊しコージ目掛けて瓦礫が落ちる。

コージ「うわああ!?!」

コージは必死に老人に覆い被さる。

.....

ビート「いい加減に・・・」

ミュージズ「してー!!」

ビートとミュージズはウザイナーの腕を振りほどき蹴り飛ばした。

ビート「メロディー!!リズム!!」

メロディー「わかった!!」

リズム「いくわよ!!」

ウザイナーは光線をメロディーとリズムに放つがメロディーとリズムは軽快なステップを踏み手をつないで突き出す。

メロディー・リズム「プリキュア!!パッショナート・ハーモニー!!」

パッショナート・ハーモニーにより光線は相殺された。

ミュージズ「一気に決めよう!!」

4人はヒーリングチェストを使った。

「出でよと全ての音の源よ・・・」

ヒーリングチェストからクレッシェンド・トーンが飛び出した。

メロディー「届けましょう、希望のシンフォニー!!」

「プリキュア!!! スイートセッション・アンサンブル!!!」

スイートプリキュアは光をまといウザイナーを貫く。

「ファイナーレ!!!」

ウザイナーは浄化され消えた。

つぼみ「や、やった!!!」

しかし

???「あらあら、やっぱりこの世界にも来たのね。」

つぼみ「えっ!?!」

つぼみは振り返った、そこには蛇のような髪の毛をした女が立っていた。

つぼみ「ア、アナコンディ!?!」

メロディー「つぼみ!!!」

メロディー達がつぼみの所へ駆けつける。

アナコンディ「邪魔だ。」

つぼみ「み、皆さん!!! 目を閉じてください!?!」

リズム「えっ……」

ビート「あれ・・・体が動かない・・・!?」

ミューズ「うそ・・・」

メロディー「か、体が石に!？」

アナコンディの目は相手を石化する力を持っているのだ。

メロディー「た、助け・・・」

そしてスイートプリキュアは4人共完全に石化してしまった。

ハミィ「ニヤんとお!？」

アナコンディ「貴様も邪魔になるな。」

ハミィ「ニヤあ!？」

アナコンディはハミィも石化させた。

つぼみ「ス、スイートプリキュアが・・・」

アナコンディ「プリキュア、お前達は生きたまま死ぬ・・・お前は
この世界の人間か？」

つぼみ「!?!」

つぼみは腰が抜け座り込んでしまった。

アナコンディ「弱い人間など興味は無い、せいぜい滅びの時まで怯えるがいい。」

アナコンディは姿を消した。

つづく

決意

スイートプリキュアが石化された日の夜、病院にコージが運ばれた事を聞きつけたつぼみは病院に向かった。

『病院』

つぼみ「皆さん!！」

そこにはナッツハウスのメンバーの一部がいた。

りん「つぼみ……」

つぼみ「コージさんは!？」

シロー「この病室にいる。」

うらら「のぞみさんもいます。」

……

つぼみは病室に入った。

そこにはコージの手を握りしめて何かを願うのぞみ、その様子を見る夏がいた。

つぼみ「のぞみさん……」

夏がつぼみの耳元で囁いた。

夏「足をくじいた高齢者を助けて瓦礫の下になつたらしい・・・かれんが何とか応急処置を施して高齢者は助かったが・・・コージは意識がない。」

つぼみ「そんな・・・」

するとのぞみは

のぞみ「私・・・駆けつけたのに・・・何もできなかった。」

つぼみ「のぞみさんのせいじゃ・・・」

のぞみ「守れなかった・・・私は・・・好きな人を守れなかった・・・」

つぼみ「・・・」

・・・

つぼみは病室から出た。

こまち「どう・・・だった？」

つぼみは頭を横に振る。

かれん「そう・・・」

くるみ「コージさん・・・」

・・・

つぼみは病院を出たが激しい雨が降っていた。

つぼみは雨にうたれながら石化したスイートプリキュアの所にいた。

つぼみ「教えて……ください……プリキュア。」

メロディー「……………」

リズム「……………」

ビート「……………」

ミューズ「……………」

ハミィ「……………」

つぼみ「伝説の戦士を目覚めさせるには……どうすればいいんですか？」

しかしプリキュアはもちろん答える事ができない。

するとつぼみは背後に気配を感じ振り返った。

そこには白い服を着た少年がいた、その姿は何故か消えかかっていた。

つぼみ「……………誰ですか？」

少年「やっぱり……忘れてしまったんだね。」

つぼみには少年の言葉が理解出来なかった。

少年「このままでは世界はあいつらの物になってしまい・・・プリキュアの希望と夢が消え・・・僕も消えてしまう・・・早く思い出して。」

つぼみ「何を思い出せばいいんですか！？あなたは一体誰何ですか！？？」

すると少年の姿は完全に消えてしまった。

つぼみ「待つてくださいー！！」

つぼみは雨にうたれながらどうすれば良いか考えていた。

つぼみ「・・・」

そして何かを決意した。

・・・

えりか「また夢の話？」

翌日、つぼみは片っ端から自分の言うことを信じてくれる人にあの夢の話をした。

えりかはウザイナーが暴れたせいで服屋である家の中がめちゃくちゃになっていた。

つぼみ「本当かもしれないんです！！えりかはプリキュアかもしれないんです！！だから・・・」

えりか「つぼみ、今はそんな冗談に付き合ってる暇はないから。」

えりかはそう言った。

つぼみ「……」

……

いつき「つぼみ、君が羨ましいよ……こんな時までそんな夢を捨てないなんてさ。」

つぼみ「信じて……くれないんですか？」

いつき「ごめん。」

……

つぼみ「ゆりならわかってくれますよね！？パラレルワールドは本当にあって……」

ゆり「つぼみ、悪いけれど……信じる事はできないわ。」

つぼみ「ゆりまで……」

……

薫子「伝説の戦士？」

つぼみ「はい、なぎささん達やえりか達も……」

つぼみは祖母の薫子にしかもはや信じてもらえないと思った。

つぼみ「おばあちゃんなら信じて……くれま……」

しかし

薫子「何を言っているの？」

つぼみ「えっ？」

薫子「何故今になってそんな夢みたいな話？」

つぼみ「夢って……夢じゃなく本当かもしれない……」

薫子「つぼみ、あなた少し強引なんじゃない？」

つぼみ「う、強引……？」

薫子「あの時は、自分で夢を諦めたんじゃないの？」

……

つぼみ「私……やっぱりおばあちゃんと一緒に暮らします。」

薫子「……」

……

薫子「あなたは夢を諦めた……いつしか努力する事を忘れてしまった……そして今度は夢を他の人に押し付けている。」

薫子の言葉に何も言えないつぼみ。

そして

つぼみ「確かに・・・私は夢を諦めました・・・強引かもしれないけど、でも、これだけは本気です・・・信じてほしいという気持ちは本物です！！見ててください！！」

つぼみはそう言つと走り去っていった。

・・・

街が混乱している中、突如地震のような物が発生した。
それはどんどん大きくなる。
そして地面から怪物が現れた。

????「ネガトーン！！」

さらに上空からも怪物が現れた。

????「ホシイナー！！」

その2体の怪物は街を破壊し始めた。

つづく

それぞれの夢と希望

ホシイナー「ホシイナー!!」

ネガトーン「ネガトーン!!」

ホシイナーとネガトーンは街を破壊する。
そしてアナコンディも現れた。

アナコンディ「ふふっ、あんたも思う存分暴れなさい。」

そう言うとアナコンディはデザトリアンを出現させた。
本来デザトリアンは人の心の花が枯れなければ出現しないが今回は
ただ暴れるという意味だけをもち現れた。

デザトリアン「あばれるうう!!」

アナコンディ「あはははは!!」

.....

えりかは怪物が街を破壊する中家の中を片付けていた。
そこにえりかの姉のももかが

ももか「えりか、避難警告がでてるわよ。」

えりか「ああ、もも姉・・・私ここに残るよ。」

ももか「し、正気なの?」

えりかは軽く頷いた。

えりか「もも姉、私の夢知ってるでしょ？もも姉に似合う最高の服を作る事・・・それでコンテストでも結構良い結果だった、でも・・・」

『あなたの衣装には心がこもってない、私はこれを着る事はできないわ。』

ももか「えりかの衣装には個性がなかったのよ、私に衣装を着て欲しいならえりかにしか作れない衣装を作りなさいって私はその後言っただわよね？」

えりか「うん・・・でも自分でも自分の個性がわからなくなってさ・・・」

ももか「まさかあなた・・・それを未練にここで死ぬわけ!？」

えりか「・・・そうかもしれない。」

・・・

いつき「・・・はあ。」

いつきは自分の家のため息をついた。

????「いつき。」

いつき「ゆ、ゆり!?!?!いつの間に!?!?」

ゆり「いくら呼んでも返事がないんだもの。」

いつき「し、ごめん……」

ゆり「何か考え事？」

いつき「うん……夢の事さ。」

ゆり「夢？」

いつき「世界一の空手家になる……そんな夢を昔は持ってたなあ
って……」

ゆり「昔ってあなたまだ十代でしょ？まあわからなくはないわ……
私も周りから天才ばかり言われて……何かが自分にのしかかって
た。」

いつき「のしかかってた？……あ」

『いつきは中学でも空手やっていけるよ!~!』

『きつと有名になるんだろうなあ。』

いつきは今まで忘れていたある記憶を思い出した。

いつき（僕もゆりと同じ……知らず知らずのうちに何かがのしか
かってたんだ。）

ゆり「いつき？」

いつき「あ、な、何でもない。」

.....

同時刻、戦闘機が空中を旋回しデザトリアン、ネガトーン、ホシイナールを狙いミサイルを打ち込んだ。

ネガトーン「ネガトーン!!」

しかしネガトーンは特殊な音波でミサイルを撃ち落とす。

デザトリアン「あばれるうう!!」

デザトリアンは戦闘機を破壊、ホシイナールは街を破壊していく。

ホシイナール「ホシイナール!!」

.....

数時間後

夜になり怪物達はさらに暴れて街は壊滅に近い状態になる。そして負傷者が次々と病院に運ばれる。

りん「ち、ちよつとまづくない!?!」

こまち「こんなにも負傷者が!!」

????「みんな!!」

なぎさ達が駆けつけた。

うらら「なぎささん！！無事だったんですね！？」

なぎさ「あたばあよー！！」

ほのか「コージさんは！？」

かれん「まだ目を覚ましてないわ。」

ひかり「そんな・・・」

すると病室からのぞみが出てきた。

くるみ「のぞみ、コージさんは？」

のぞみ「まだ意識は戻ってないよ、でも・・・握ってたコージさんの手に少しだけ力が入ったの。」

ほのか「こっちに帰ってこようとしてるのね。」

のぞみ「コージさんは私と夏さんとシローにまかせて、みんな街の状況を見てきてくれる？」

一同は頷き病院を出た。

UJU

運命の決意

つぼみは街を走り回り避難を呼びかける。

つぼみ「皆さん！！ここは危険です！！向こうに逃げてください！！」

人々はつぼみの言う通り逃げた。

つぼみ「はあはあ・・・あっ！？」

ホシイナーは建物を破壊、それにつぼみは巻き込まれる。

つぼみ「きゃああ！？」

つぼみは瓦礫の下敷きになりかけたが運良く空洞ができた。

つぼみ「くっ・・・」

つぼみは何とか瓦礫から抜け出したがその瞬間空洞が崩れ落ちた。

つぼみ「あ、危なかった・・・」

つぼみは立ち上がり町の様子がよく見える場所に行った。

つぼみ「私達の町が・・・」

そこには町を破壊するホシイナー、ネガトーン、デザトリアン、そして姿を変えたアナコンデイがいた。

つぼみ「あれはプリキュアを石にした怪人・・・いつの間に・・・」

つぼみはあの少年の事を思い出した。

『早く思い出して。』

つぼみ「何を思い出せば・・・わかりません・・・私には何もできない・・・」

すると

????「何言ってるの？」

????「あなたは私達を支えてくれたじゃない。」

つぼみ「えっ？」

つぼみは振り向くとそこには咲と舞がいた。

咲「あなただけじゃなくえりかやいつき、ゆりも私達を支えてくれた。」

舞「夢と希望があれば必ずプリキュアが来てくれる・・・そう言ってくれたから私達は今まで頑張ってた。」

つぼみ「私達が？」

????「そつだよ!..!」

するとクローバーのメンバーのラブ、美希、祈里、せつなが駆けつけた。

つぼみ「クローバーのみなさん!？」

美希「今まで私が完璧でいられたのはあなた達が夢を諦めなかったから。」

祈里「最初はダンスできるか不安だったけど・・・夢と希望を諦めない思いが自分を信じさせてくれた。」

せつな「私はクローバーに遅れて入ったからみんなに迷惑かけっぱなしだった、でもね・・・あなた達に励まされて精一杯頑張ろうって思えたの。」

つぼみ「夢を諦めなかった？」

ラブ「そう!!おかげで私達は今以上にダンスを好きになれたし、幸せもゲットできたの!!」

咲「いつもいつも試食に来てくれて一番信頼したお客様だったよ。」

舞「ありがとう。」

つぼみ「・・・!!」

『夢や希望を捨てなければ、きっとプリキュアが来てくれます!!』

今まで忘れていた言葉を思い出した。

そして怪物達のもとに向かって走り出した。

UNU

運命の決意（後書き）

次回、ついに！！

目覚めた記憶

えりか はももかに言った。

えりか 「もも姉、あなし行ってくる。」

ももか 「行くってどこに？」

えりか 「つぼみに言われたんだ、私がプリキ
ユアかもしれないって……だからその答えを見つけてくるよ。」

ももか 「……わかった。」

……

ゆり 「いつき、行
きましよう。」
いつき 「う
ん。」

その時

???? 「待って。」

薫子 がいつき、ゆりのもとに来た。

薫子 「つぼみが……何か決

意をしたみたいなの。」

いつき 「つぼみが？」

薫子 「つぼみに出会ったらこれを渡して。」

薫子 は自分のペンダント

を渡した。

ゆり 「わかりました、行ってきます。」

薫子 「怪我をしないようにね。」

いつき 「はい、この世界は……滅んだりしません。」

……

つぼみ は怪物のもとに駆けつ
けた。

ホシイナー「ホシイナー!!」

ネガトーン「ネガトーン!!」

デザトリアン「あばれるうう!!」

アナコンディ「あはははは!!」

つぼみ「私達の町を・・・許せません。」

その時、ふと空を見上げると一筋の流れ星が流れた。
そして

『プリキュアの夢と希望が人々にいつまでもいつまでも勇気を与えますように。』

つぼみ「!!」・・・

そしてつぼみは懐かしい光景が広がった空間にいた。

そこには4人の少女と1人の白い服を着た少年がいた。

少年「もし本物の怪物がこの世界に現れて世界がピンチになったら、君がプリキュアになって助けに来てくれる?」

少女「はい、きっと・・・きっと助けにきます!!」

それは幼き頃のつぼみだった。

まだ夢を捨てない純粹な心を持った頃の自分。

そして少年は現在のつぼみの方を見た。

少年「やっと・・・思い出してくれたんだね。」

つぼみ「・・・はい。」

・・・

つぼみは元の空間に戻ったと同時にあらゆる記憶が頭をよぎる。

つぼみ「そうだったんですね・・・今はっきりとわかりました・・・伝説の戦士・・・その1人が・・・私だったんですね!!」

『シャイで引っ込み思案な自分をチェンジするんです!!』

『あなたはなんのためにプリキュアしてきたんですか!?』

つぼみ「私達の町をこんなにして・・・私、堪忍袋の緒が切れましたああ!!」

その時、不思議な光と共に妖精と不思議な道具が現れた。

????「つぼみ!!思い出すのが遅いですう!!」

つぼみ「ごめんなさい・・・シプレで良いんですよね?」

シプレ「はいですう!!」

つぼみ「シプレ・・・行きますよ!!」

つぼみは不思議な道具をスライドさせる。

シプレ「プリキュアの種！！いくですう！！」

シプレの胸のマークから赤い種が出てきた。

つぼみはそれを道具にはめ込みスライドさせる。

つぼみ「プリキュア！！オープンマイハート！！」

つぼみは道具から出される香水のようなものを浴び姿を変える。
シプレはマントにかわりつぼみに身にまとわれた。

「大地に咲く一輪の花！！キュアブロッサム！！」

膨大な光が放たれそこからキュアブロッサムが現れた。

.....

薫子「.....つぼみ？」

人々は戸惑う。
すると

????「プリキュアだよ.....ねえ志穂!？」

志穂「そつだよそつだよそつだよ莉奈！！プリキュアが来てくれた
!?!?ねえ美香!?!？」

美香「これは新聞の記事になる！！頑張れ！！プリキュア！！」

人々「頑張れ！！頑張れプリキュア！！」

ブロッサムが戦闘体勢に入る。

ブロッサム「行きます!!」

ネガトーン、ホシイナー、デザトリアンはブロッサムに襲いかかる。ブロッサムは空中を旋回しデザトリアンを蹴り倒す。

ブロッサム「はあ!!」

さらにブロッサムはホシイナーを殴りつけ、後ろから襲うネガトーンを蹴りつける。

.....

えりかは町の光景がよく見える場所にいた。

えりか「あれ?いつきとゆりじゃん。」

ゆり「えりか?」

いつき「えりか、わかるかい、あのプリキュア。」

えりか「うん、つぼみだね。」

.....

つぼみ「はあ!!」

最初は怪物を応戦していたがアナコンディが目から光線を放ちブロッサムを吹き飛ばす。

ブロッサム「きゃあ!?!」

えりか「つぼみ!?!」

ゆり「つぼみは今、自分にできる事を精一杯やってる。」

いつき「僕たちもやるべき事をやるんだ。」

ネガトーンは音波を放ちブロッサムを苦しめる。

ブロッサム「きゃあああ!?!」

アナコンディ「貴様も石になってしまえ!?!」

アナコンディは目を光らせブロッサムを徐々に石化させる。

ブロッサム「あ、足が!?!」

シプレ「ブ、ブロッサムう!?!」

アナコンディ「あははははははは!?!」

えりか「つぼみ……!」

『私、プリキユアやるわ。』

『ブロッサムは休んで!?!』

『海より広い私の心も、ここからが我慢の限界よ!?!』

いつき「・・・！」

『兄さんのために僕はどうしたらいいんだ〜!!』

『これが・・・私?』

『その心の闇、私の光で照らしてみせる!!』

ゆり「・・・！」

『あなたが私自身とはどういう事なの!?!』

『全ての心が満ちるまで、私は戦い続ける!!』

3人はふとさまざまな記憶が頭に浮かんだ。

えりか「待つてなさいよつぼみ。」

いつき「僕たちが・・・」

ゆり「今行くわ。」

すると3人は光に包まれつぼみ同様変身アイテムと妖精が現れた。しかしゆりには妖精はいなかった。

えりか「コフレだね。」

コフレ「はいですう!!」

いつき「ポプリ。」

ポプリ「やっと思い出してくれたでしゅ!」

ゆり「行くわよ・・・力を貸して、コロソ!」

コフレ、ポプリ「プリキュアの種!」いくです(しゅ)う!」

コフレとポプリは青と黄色の種を生み出し、ゆりは手をかざすと紫色の種が自然と現れた。

3人は種をアイテムにはめ込む。

3人「プリキュア!! オープンマイハート!」

3人の姿はみるみるうち変わっていく。

そしてコフレとポプリはマントとなりえりかといつきに身にまとわれ、ゆりは胸の薔薇に手を当て自らマントを身にまとった。

えりか「海風に揺れる一輪の花!! キュアマリン!」

いつき「陽の光浴びる一輪の花!! キュアサンシャイン!」

ゆり「月光に冴える一輪の花、キュアムーンライト!」

3人はプリキュアに変身した。

それを見た薫子は

薫子「えりか、いつき・・・それにゆりまで・・・」

マリン、サンシャイン、ムーンライトは手から光を放ち石化してい

くブロッサムを解放した。
人々はそれを見て安心した。

マリィ「ブロッサム！！大丈夫？」

サンシャイン「体勢は整えられる？」

ブロッサム「3人共・・・来てくれると信じてました！！」

ムーンライト「当然でしょ？あとこれ薫子さんがあなたにつて。」

ブロッサム「おばあちゃんが・・・ありがとうございます！！」

それを見たアナコンディは拳を握りしめていた。

アナコンディ「おのれえ・・・」

4人は怪物を睨みつける。

「ハートキャッチ！！プリキュア！！」

ここに花を司る伝説の戦士・ハートキャッチプリキュアが揃った。

つづく

目覚めた記憶（後書き）

次回はハートキャッチプリキュアが世界のために戦う!!

花の戦士

ハートキャッチプリキュアは怪物と向かい合い戦闘体勢にはいる。

アナコンディ「邪魔はさせるかあ!!」

アナコンディを含む怪物はプリキュアに襲いかかる。

ブロッサム「行きますよ!!」

3人「ええ!!」

ブロッサムはアナコンディ

マリンはネガトーン

サンシャインはデザトリアン

ムーンライトはホシイナ-

を担当し戦闘を開始する。

ブロッサム「はあ!!」

アナコンディ「だあ!!」

ネガトーン「ネガトーン!!」

マリン「どりゃあ!!」

サンシャイン「はっ!!」

デザトリアン「たおすう!!」

ムーンライト「はぁあ!!！」

ホシイナ「ホシイナ!!！」

.....

別の場所ではラブ達と咲達のもとになぎさ達とのぞみ達が駆けつけた。

ラブ「なぎさにのぞみ!!！」

なぎさ「あの子達が戦ってるんだね。」

のぞみ「この世界を守るために。」

ムーンライト「はぁ!!！」

ホシイナ「ホシイナ!!！」

ムーンライトはホシイナの攻撃を素早く避けつかみかかり投げ飛ばした。

ムーンライト「だぁあ!!！」

ホシイナ「ホシイナ!?!」

人々「いつけええ!!！」

サンシャイン「だぁ!!!はぁ!!！」

サンシャインはデザトリアンに攻撃させる間を与えず攻撃する。

サンシャイン「はああああ！！」

そしてサンシャインはデザトリアンを蹴り倒した。

マリ「へ〜ん、ここだよここ！！」

ネガトーン「ネガトーン！！」

マリはネガトーンの攻撃を避け挑発をする。

しかし、ネガトーンの音波にマリは吹き飛ばされた。

マリ「うわあ！？ち、調子にのりすぎたかな？」

コフレ「マリ！真面目に戦うですう！！」

マリ「はいはい！！ふっ！！」

マリは高く飛び上がり

マリ「マリ〜ンシュート！！」

マリシュートでネガトーンを押し倒した。

アナコンディ「はあ！！」

ブロッサム「やあ！！」

アナコンディとブロッサムがぶつかり合う。

アナコンディ「我々の邪魔はさせん!!」

ブロッサム「世界征服なんて邪魔するに決まっています!!」

ブロッサムはアナコンディを掴み高く飛び上がった。

アナコンディ「このお!!」

ブロッサム「くっ!?!」

アナコンディはブロッサムを蹴り飛ばし空中戦が始まった。

アナコンディ「はあ!!」

アナコンディは髪のような蛇を伸ばしブロッサムを襲う。

しかしブロッサムはそれをかわしアナコンディを蹴りつける。

アナコンディ「ぐう!?!」

ブロッサム「ブロッサムシャワー!!」

ブロッサムはブロッサムシャワーを放つ。

アナコンディは撃ち落とされた。

アナコンディ「ぐああああ!!?!」

コフレ「マリリン!!今ですう!!」

マリィン「やるっしゅー!!」

マリィンはマリィンタクトを取り出した。

マリィン「花よ煌めけ!!プリキュア・ブルーフォルテウェーブ!!」

マリィンタクトから青く巨大な花のつぼみが放たれネガトーンを包み込む。

マリィン「はああああー!!」

マリィンタクトのリボルバーのようなものを回しネガトーンを浄化、消滅させた。

人々「やったああああー!!」

サンシャイン「ポプリ!!行くよー!!」

ポプリ「はいでしゅー!!」

ポプリはシャイニータンバリンを取り出した。

サンシャイン「花よ舞い踊れ!!プリキュア・ゴールドフォルテバーストー!!」

多数のひまわりがデザトリアンを包み込む。

サンシャイン「はああああー!!」

サンシャインはシャイニータンバリンを回しデザトリアンを浄化、

消滅させた。

ムーンライト「私も続くわ!!！」

ムーンライトはシルバータクトを取り出した。

ムーンライト「プリキュア・シルバーフォルテウエーブ!!！」

銀色の花のつぼみがホシイナーを包み込む。

そしてムーンライトはタクトを回しホシイナーを浄化、消滅させた。

うらら「やりました!!！」

舞「後はあの怪人だけね!!！」

ハートキャッチプリキュアは並びアナコンディに向かい合う。

アナコンディ「我々が・・・貴様らごときに負けるかああああ!!！」

アナコンディは髪のような無数の蛇の目から光線を放つ。
しかし

サンシャイン「サンフラワー・イージス!!！」

サンシャインはサンシャインイージスで光線を防ぐ、そしてマリ
ンとムーンライトがアナコンディに接近する。

ムーンライト「ムーンライト・シルバーインパクト!!！」

マリ「マリインパクト!!！」

2人は衝撃波を放ちアナコンディの体勢を崩す。
そして目の前にはブロッサムがいた。

ブロッサム「これで・・・終わりです!!」

ブロッサムはブロッサムタクトを取り出した。

ブロッサム「花よ輝け!!プリキュア・ピンクフォルテウエーブ!
!!」

ピンク色のつぼみがアナコンディに直撃、ブロッサムはタクトのり
ボルバーのようなものを回す。

ブロッサム「はあああ!!」

アナコンディ「ぐああ・・・あ・・・」

アナコンディは浄化され消滅した。

人々「わあああ!!」

薫子「やった!!」

のぞみ「やったあ!!」

りん「ちよつとのぞみ抱きつくな!!」

祈里「良かった・・・私信じてた。」

マリン「やったね、ブロッサム!」

サンシャイン「あなたのおかげでプリキュアとして目覚められた。」

ムーンライト「ありがとう。」

ブロッサム「みなさん・・・」

しかし、その時

(滅べ・・・)

つづく

花の戦士（後書き）

次回、伝説の戦士が！！

受験合格したんで本領発揮です

決意と目覚め

突如不気味な声が響きわたる。

(滅べ・・・滅べ・・・)

人々はざわめきだす。

薫子「な、何なの？」

(喜ぶな・・・かなしめ・・・苦しめ・・・)

かれん「何よこれ!？」

くるみ「頭が痛くなる・・・」

すると倒したはずの怪物が半透明でまるで火の玉のように空中に現れ泳ぎだした。

ブロッサム「こ、これは・・・」

えりか「ななななんなのお!？」

サンシャイン「まさか・・・」

ムーンライト「怪物の怨念？」

するとその怨念が一つになり暗雲が現れる。

4人「!？」

暗雲がはれるとそこには何ともおぞましい姿をした巨大な怪物が現れた。

「グオオオオオオ!!」

その怪物は今まで倒した怪物が合体し巨大化したような姿をしていた。

そして怪物は光弾を無数に放ちプリキュアを襲う。

ブロッサム「きゃあ!？」

マリン「うわあ!？」

サンシャイン「ああ!？」

ムーンライト「くっ!？」

ブロッサム達は地面に叩きつけられる。

怨念集合体は光弾を絶え間なく放ち続ける。

マリン「きゃあ!？」

サンシャイン「サンフラワーイージス!!」

サンシャインはサンフラワーイージスを出すが無数の光弾に耐えきれずすぐに壊されてしまう。

サンシャイン「きゃあ!？」

ムーンライト「ああ!？」

ブロッサム「くう!!プリキュア・ピンクフォルテ・・・」

しかし光弾はブロッサムの技を阻止するかのようには放たれブロッサムを苦しめる。

ブロッサム「きゃあああ!？」

・・・

それを見ていたなぎさ達は

なぎさ「あの怪物、なんて強い・・・」

ほのか「でもプリキュアは負けないわ!!」

ひかり「はい、みんなそれを知っています!!」

咲「どんなに辛くても・・・」

舞「人々はプリキュアを信じてる。」

莉奈「がんばれ!!プリキュア!!」

志穂「負けるな負けるな負けるな!!」

美香「必ず勝って!!私達がついてる!!」

人々「がんばれ！！プリキュア！！」

マリン（みんな・・・私達を信じてる・・・）

サンシャイン（こんな状況でも・・・逃げずに・・・）

ムーンライト（私達は・・・負けるわけにはいかない・・・）

ブロッサム（みなさんの思いに・・・答えたいです！！）

そして怨念集合体は巨大な火球を放つ。

辺りは大爆発を起こした。

薰子「！！」

人々「・・・」

しかし、爆風を突き抜けブロッサム達が飛び出した。

人々は歓声をあげる。

ブロッサム「みなさんの思いは無駄にはしません！！」

ブロッサム達はひるまず怨念集合体に攻撃を仕掛ける。

・・・

のぞみ「みんな、プリキュアの勝利を信じてる。」

りん「たとえどんな状況になっても・・・」

うすら「絶対に諦めていません・・・」

こまち「でも・・・」

かれん「私達も・・・人々に信じられていた・・・」

くるみ「私達はこの声を聞いた事がある!!」

ラブ「そうだ・・・そうだった!」

美希「私達はいつも・・・」

祈里「この声を聞いて・・・」

せつな「戦い続けてきたんだ!!」

すると

????「そつよ。」

ラブ「ミ、ミユキさん!!」

そこにはミユキがいた。

ミユキ「私も思い出した、あなたが人々を幸せにしたいと戦った事を・・・」

ラブ、美希、祈里、せつな「!!!」

ラブ達には覚えのある記憶が脳内を駆け巡った。

『みんなで幸せゲットだよ!!』

『私完璧』

『私、信じてた。』

『精一杯がんばるわ!!』

????「お前達もだぞ。」

こまち「な、夏さん!!」

そこには夏、キリヤ、満、薫がいた。

夏「お前達は全ての世界を愛し、そして救ってきた。」

『シロップは私達とキュアローズガーデンに行くんだよ。』

『ミントのおかげでお化けも・・・少しは怖くなくなったんだから

!!』

『歌はみんなを幸せにするものなの!!』

『本当はあなたも守りたかった。』

『私はこのぞみ達と出会って変わったの!!』

『大切なものほど失いやすいのよ』

のぞみ達「!!」

のぞみ達の脳内に覚えのある記憶がよぎった。

キリヤ「ほのか、なぎさ、君達は命をかけて世界を救った。」

『これ、なぎさのでしょ?』

『行こう!!ほのか!!』

キリヤ「君達は本物の戦士だ。」

ほのか「キリヤ・・・」

なぎさ「・・・ありがとう。」

ひかり「大切な人を守るために・・・」

『なぎささん!!まだ試合は終わってません!!』

なぎさ達の脳内に覚えのある記憶がよぎった。

満「咲、舞、あなたは友達と思った人がどんな人でも救おうと頑張ってくれた。」

『私は満を友達と思っているから!!』

『もうやめて!!』

薫「本当にありがとう。」

咲「満……」

舞「薫……」

咲と舞の脳内に覚えのある記憶がよぎった。
そしてなぎさ達の手元が光る。
そして妖精と変身アイテムが現れる。

????「なぎさ……思い出すのが遅いメポ……」

なぎさ「ごめんごめん、メップル……」

????「ほのか、やっと思い出してくれたミポ……」

ほのか「ミップル、やっと思い出したよ。」

????「ひかり……嬉しいポポ……」

ひかり「ポルン……」

????「咲は鈍感ラピ。」

咲「何よフラッピ。」

????「喧嘩はダメムプ……」

咲「ふふ、わかってるよムープ。」

「????「舞、嬉しいチョコピ。」

「????「フープもププ。」

舞「私もよチョコッピ、フープ。」

「????「キュアキュア」

「????「思い出さないかと心配したかな」

ラブ「思い出さないわけないでしょタルト!!!」

祈里「シフォンちゃんもね。」

そして一同は変身アイテムを構える。

なぎさ「みんな、私達も行くよ!!!」

咲「のぞみ達と一緒に!!!」

なぎさ達は決意をかためた。

「デュアル・オーロラウェーブ!!!」

「ルミナス・シャイニングストリーム!!!」

「デュアル・スピリチュアルパワー!!!」

「プリキュア!!!メタモルフォーゼ!!!」

「スカイローズ・トランスレイト!!!」

「チェインジー…！プリキュア・ビートアップ…！」

へっへっ

決意と目覚め（後書き）

次回、奇跡の全員大集合！！

伝説の戦士プリキュア

なぎさ達は膨大な光に包まれ姿を変えた。

その姿は通常とは違い背中に綺麗な翼がついていた。

なぎさ「光の使者！！キュアブラック！！」

ほのか「光の使者！！キュアホワイト！！」

「ふたりはプリキュア！！」

ホワイイト「闇の力の下部達よ！！」

ブラック「とつととお家に帰りなさい！！」

ひかり「輝く命、シャイニールミナス！！光の心と光の意志！！全
てを一つにするために！！」

咲「

輝く金の花！！キュアブルーム！！」

舞「煌めく銀の翼！！キュアイーグレット！！」

「ふたりはプリキュア！！」

イーグレット「聖なる泉を汚す者よ！！」

ブルーム「阿漕な真似はお止めなさい！！」

のぞみ「大いなる希望の力！！キュアドリーム！！」

りん「情熱の赤い炎！！キュアルージュ！！」

うすら「はじけるレモンの香！！キュアレモネード！！」

こまち「安らぎの緑の大地、キュアミント！！」

かれん「知性の青き泉！！キュアアクア！！」

「希望の力と未来の光！！華麗に羽ばたく5つの心！！yes！！
プリキュア5！！」

くるみ「青い薔薇は秘密の印！！ミルキィローズ！！」

ラブ「ピンクのハートは愛ある印！！もぎたてフレッシュ！！キュ
アピーチ！！」

美希「ブルーのハートは希望の印！！摘みたてフレッシュ！！キュ
アベリー！！」

祈里「イエローハートは祈りの印！！とれたてフレッシュ！！キュ
アパイン！！」

せつな「真っ赤なハートは幸せの証！！熟れたてフレッシュ！！キ
ュアパッション！！」

ピーチ「レッツ！！」

「プリキュア！！」

光が消えるとそこには計15人の伝説の戦士がいた。

志穂「もしかしてもしかしてもしかしてあれって!!」

莉奈「私達が小さい頃に見た・・・」

美香「プリキュアオールスターズだよ!!」

人々「頑張れプリキュア!!」

15人のプリキュアは手を伸ばしエネルギーを石化したスイートプリキュアに送る。

そしてついにスイートプリキュアの石化が解け、メロディー達にも美しい翼がついた。

ブラック「メロディー!!」

ブラック達がメロディー達に駆け寄る。

ミューズ「み、みんな・・・」

ビート「ついに目覚めたんだね・・・」

リズム「良かった・・・」

メロディー「ありがとう、みんな。」

そして一同は上空で怨念集合体と戦うブロッサム達の元に飛び立つ。

ブロッサム「み、みなさん!?!」

ブラック「お待たせブロッサム!!」

ピーチ「行くよー!!」

プリキュアが23人全員が集合し怨念集合体に立ち向かう。

ブラック「ホワイト!!ルミナス!!」

ホワイト「うん!!」

ルミナス「はい!!」

怨念集合体を体から無数の蛇を伸ばす。

ルミナス「ルミナス!!ハーティエルアンクション!!」

しかしルミナスの技により蛇は動けなくなった。

ブラック「プリキュア!!」

ホワイト「マーブルスクリー!!」

ブラック、ホワイト「マックスウウウウウ!!」

白黒の光線が渦を巻き怨念集合体の蛇を襲う。

ブルーム「行くよイーグレット!!」

イーグレット「OK!!」

ブルームとイーグレットは空中を旋回しながら怨念集合体を攪乱し

隙を見つける。

ブルーム、イーグレット「プリキュア！！ツインストリーム・スプラアアアツシュー！！！」

怨念集合体は鮮やかな2つの光線に苦しむ。

ドリーム、レモネード「いづくぞお！！！」

ルージュ「こら！はしゃぐな！！！」

ルージュの注意むなくプリキュア5は怨念集合体の巨大な口の中に閉じ込められてしまった。

ドリーム「どどどどどうしよう！？」

レモネード「食べられちゃいました！？」

ルージュ「あんたらのせいでしょうが！！！」

ミント「でも本当にどうしようかしら？」

アクア「大丈夫よ、ね？ローズ。」

ローズ「当たり前でしょ？みんな、必殺技よ！！ドリームは後で！！！」

ドリーム「わかった！！！」

ルージュ「行くわよ！！プリキュア！！ファイヤーストライク！！！」

レモネード「プリキュア！！プリズムチェーン！！」

ミント「プリキュア！！エメラルドソーサー！！」

アクア「プリキュア！！サファイアアロー！！」

ローズ「邪悪な力を包み込む、煌めく薔薇を咲かせましょう！！ミルキーローズ・メタルブリザード！！」

怨念集合体は口の中を激しく攻撃され暴れ出す。

ローズ「今よ！！ドリーム！！」

ドリーム「プリキュア！！シューティングスター！！」

ドリームは桃色の流星となり怨念集合体の口をこじ開け、6人は脱出した。

ピーチ「みんな！！」

ベリー「OK！！」

パイン「うん！！」

パッション「わかったわ！！」

ピーチ「クローバーボックスよ！！私達に力を貸して！！」

パッション「ハピネスリーフ！！セット！！パイン！！」

パッションは赤いハートを生み出してパインに投げ渡す。

パイン「きゃあ!？」

怨念集合体は指先から弾丸のような光を乱射しパインがハピネスリーフを受け取るのを妨害する。

ベリー「パイン!？」

パイン「はあ!！」

パインはその弾丸をかわしハピネスリーフを掴み取る。

パイン「プラスワン!!プレアアリーフ!!ベリー!！」

ベリーはプレアアリーフを掴み取ろうとするが怨念集合体は巨大な手を伸ばしベリーを叩き落とそうとする。

ベリー「やっぱり邪魔してきたわね。」

ベリーは怨念集合体の指の隙間を通り抜け手の甲に立つ。
そしてハピネスリーフ+プレアアリーフを掴み取る。

ベリー「プラスワン!!エスポワールリーフ!!ピーチ!！」

ピーチはハピネスリーフ+プレアアリーフ+エスポワールリーフを受け取る。

ピーチ「プラスワン!!ラブリーリーフ!！」

そして四つ葉型のマークが完成、怨念集合体はピーチに手を伸ばすがベリー達3人が怨念集合体の手を蹴り飛ばす。

ピーチ「はっ!!」

ピーチが四つ葉を投げると四つ葉は巨大化し怨念集合体の足下に移動、ピーチ達もそれぞれの立ち位置に移動する。

「ラッキークローバー!!グランドファイナーレ!!」

怨念集合体は青いクリスタルに包まれ苦しむ。

メロディー「固まって動けなかったぶんやるわよ!!」

リズム「OK!!」

ビート「この世界は絶対に!!」

ミュージズ「わたさない!!」

ミュージズはシリーをキュアモジュールに取り付ける。

ミュージズ「シの音符のシャイニングメロディー!!」

怨念集合体はミュージズを襲おうとするが

ビート「ビートバリア!!」

ビートがラブギターロッドでビートバリアを放つ。

怨念集合体の攻撃によりバリアは破壊されるがミューズには十分すぎる時間稼ぎだった。

ミューズ「プリキュア！！スパークリングシャワー！！」

無数の黄色い音符が怨念集合体に放たれ

ビート「ビートソニック！！」

さらにビートは青い音符を怨念集合体に放つ。

音符は直撃し怨念集合体は苦しむ。

メロディー「リズム！！」

リズム「行くわよ！！」

メロディーとリズムはそれぞれミラクルベルティエ、ファンタステイックベルティエを取り出し片方ずつ交換し取り付ける。

メロディー、リズム「プリキュア！！ミュージッククロンド！！スーパーカルテット！！」

無数の光の輪が怨念集合体に直撃する。

ブラック「よし！！弱ってきてる！！」

プリキュアは一箇所に集まる。

すると怨念集合体はエネルギーをたくわえ始める。

マリン「な、何あの嫌なオーラは！？」

アクア「来るわよ!!」

怨念集合体は街に向かってマグマのようにドロドロとした巨大な光線を放つ。

パイン「町が!?!」

ルミナス「させません!!」

ルミナスは光線の真下に移動、バリアをはり町を守る。

ルミナス「みなさん!!」

プリキュアは一斉に必殺技を放つ。

ブラック、ホワイト「プリキュアマーブルスクリュー!!マックス
ウウウウ!!」

ブルーム、イーグレット「プリキュア!!ツインストリーム・スプラッシュ!!」

ドリーム「5つの光に!!」

プリキュア5「勇気を受けて!!プリキュア・レインボーローズエクスプロージョン!!」

ローズ「邪悪な力を包み込む煌めく薔薇を咲かせましょう!!ミルキィローズ・メタルブリザード!!」

ピーチ、パイン、ベリー「悪いの悪いの飛んでいけ！！プリキュア！！トリプルフレッシュュ！！」

パッション「プリキュア！！ハピネスハリケーン！！」

ブロッサム、マリリン、サンシャイン、ムーンライト「プリキュア！！フローラルパワーフォルテッシュモ！！」

ルミナスを除くプリキュアの必殺技が怨念集合体を直撃、怨念集合体は光線を止める。

ルミナスはプリキュアのもとに戻った。

ドリーム「どうだ！！」

ムーンライト「何か来ます！！」

怨念集合体は先ほどの光線を次はプリキュアに向かって放つ。

しかしプリキュアは全員バリアをはり光線を跳ね返す。

光線は怨念集合体を直撃し怨念集合体は逃げるように宇宙へ飛ぶ。

ブロッサム「逃がしません！！」

プリキュアは怨念集合体を追い宇宙へ飛ぶ。

メロディー「みんな！！」

メロディーはピンク色の音符を怨念集合体に向かって放つ。

さらにプリキュアはその音符目掛けてエネルギーを送る。

すると音符は無数に増えそれぞれのプリキュアの色に染まり怨念集合体を襲う。

ブラック「漲る勇氣!!」

ホワイト「溢れる希望!!」

ルミナス「光輝く絆と共に!!」

ブラック、ホワイト「エキストリーム!!」

ルミナス「ルミナリオオオオ!!」

イーグレット「精霊の光よ!!命の輝きよ!!」

ブルーム「希望へ導け!!2つの心!!」

ブルーム、イーグレット「プリキュア!!スパイラルハートスプラ
ッシュ!!」

プリキュア5、ローズ「プリキュア!!ミルキィローズ・フロ
ラルエクスプロージョン!!」

ピーチ「プリキュア!!ラブサンシャイン・・・」

ベリー「プリキュア!!エスポワールシャワー・・・」

パイン「プリキュア!!ヒーリングプレー・・・」

ピーチ、ベリー、パイン「フレエエツシュ!!」

パッション「プリキュア!!ハピネスハリケーン!!」

ブロッサム、マリン、サンシャイン、ムーンライト「プリキュア！
！フローラルパワーフォルテッシモ！！」

全てのプリキュアの必殺技が合体し膨大な浄化のエネルギーが怨念
集合体を包み込み消滅させた。

つづく

伝説の戦士プリキュア（後書き）

次回、ついに完結

再び夢へ

地上でも空からプリキュアの浄化の光が見えていた。

莉奈「やった・・・よね？」

美香「プリキュアが・・・」

志穂「勝った勝った勝った！！プリキュアが勝った！！」

人々は歓声を上げ飛び上がる。

宇宙からプリキュアが舞い戻った。

???「おのれ・・・」

するとプリキュアの目の前に全ての根源である邪悪なる存在が巨大な姿で現れた。

邪悪なる存在「おのれプリキュア・・・だが我らは消えん・・・我らはすぐにでも強い怪物を呼び寄せる事が出来る・・・そして全ての並行世界からプリキュアを消し去ってくれる！！全ての世界は我らの物だ・・・はははははははははははははははははははははははははははは！！」

人々は邪悪なる存在を睨みつける。
そして

ブロッサム「無駄です！！」

邪悪なる存在「なに？」

ブロッサム「夢と希望を思い出した今、私達に出来ない事はありません！！あなたを・・・絶対に倒します！！！」

その時、薫子がブロッサムに渡したペンダントが輝きだした。

ブロッサム「確かに人は1人では何も出来ません、希望も何も無くなってしまいます、でも・・・支え合う事でどんな困難にも立ち向かえるという希望を持ち続けてられるんです！！！」

邪悪なる存在「希望だと？」

ブラック「その通り！！私達はブロッサム達に支えられてきたから今まで希望を捨てずに生きてこられたの！！！」

ブルーム「たとえどんな困難に直面しても乗り越えてこられた！！！」

ドリーム「支え合う人々の思いが大きな希望となって自分達を成長させる！！！」

ピーチ「希望を持ち続けていれば、きっとその希望は自分に答えてくれる！！！」

メロディー「あなたは私達を消す事は出来ない！！希望を持ち続けている限り！！！」

ブロッサム「人々は希望を持ち続けているから生きていられるんです！！希望を捨てない限り人々の心は永遠に輝き続けます！！！」

すると人々の手が光だしそこにはライトのようなものがあつた。

莉奈「使い方覚えてる？」

志穂「もちろん！！」

美香「みんな！！ライトをつけてプリキュアに力を送って！！」

人々

はライトをつけ振り出す。

人々「プリキュアに力をおおお！！」

そのライトは病院にいるシローにも届いていた。

シロー「こ、これは・・・」

コージ「・・・プリキュア・・・」

人々「プリキュアに力をおおお！！」

徐々にペンダントの光が強くなる。

人々「プリキュアに力をおおお！！」

そしてペンダントが膨大な光を放ちプリキ

ュアを包み込む。

プリキュアはそれぞれブラック、ホワイト、ルミナス、メロディー、リズム、ビート、ミューズはスーパプリキュア、ブルームはブライティブルーム、イーグレットはウィンディイーグレット、ドリームはシャイニングドリーム、ルージュ、レモネード、ミント、アクア、ローズはレインボー、ピーチ、ベリー、パイン、パッションはキュアエンジェル、いわゆる最強形態に変わった。

プリキュア「力が溢れてくる・・・みんな！！ありがとう！！」

邪悪なる存在「なに！？」

プリキュア「あなたの思い通りにはさせない！！」

ブラック「漲る勇気！！」

ホワイト「溢れる希望ー!!」

ルミナス「光輝く絆と共にー!!」

ブラック、ホワイト「エキストリームー!!」

ルミナス「ルミナリオオオオー!!」

ウィンディイーグレット「精霊の光よー!!命の輝きよー!!」

ブライティブルーム「希望へ導けー!!2つの心ー!!」

ブルーム、イーグレット「プリキュアー!!スパイラルハート・スプラアアアツシュー!!」

シャイニングドリーム「5つの光にー!!」

ルージュ、レモネード、ミント、アクア「勇気を乗せてー!!」

プリキュア5「プリキュアー!!レインボーローズエクスプロージョー!!」

ローズ「邪悪な力を包み込む、煌めく薔薇を咲かせましょうー!!ミルキーローズ・メタルブリザードー!!」

エンジェルピーチ「プリキュアー!!ラブサンシャインー!!」

エンジェルベリー「プリキュアー!!エスポワールシャワーー!!」

エンジェルパイン「プリキュアー!!ヒーリングプレアーー!!」

ピーチ、ベリー、パイン「フレエエツシュ!!」

パッション「プリキュア!!ハピネスハリケーン!!」

メロディー「翔け巡れ!!トーンのリング!!プリキュア・ミュージッククロンド!!」

リズム「翔け巡れ!!トーンのリング!!プリキュア・ミュージッククロンド!!」

ビート「翔け巡れ!!トーンのリング!!プリキュア・ハートフルビートロック!!」

ミューズ「シの音符のシャイニングメロディー!!プリキュア・スパークリングシャワー!!」

ブロッサム、マリン、サンシャイン、ムーンライト「プリキュア!!ハートキャッチオーケストラアアア!!」

プリキュアの必殺技が合体し邪悪なる存在に直撃する。

邪悪なる存在「ぐおっ・・・」

プリキュア「はああああああああああああああああああああああああああああ!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

邪悪なる存在「消えんぞ・・・我らはああ・・・」

邪悪なる存在は浄化の光と共に消滅した。

人々は歓声を上げる。

.....

プリキュアは元の姿に戻った、するとそこには薫子、満、薫、夏、キリヤ、ミユキ、そして病院にいるはずのシローがいた。

シロー「コージさん、峠を越えたぜ。」

一同は安心した。

なぎさ「良かったねのぞみ!!」

ラブ「必ず助かるって信じてたよ!!」

のぞみ「みんな・・・ありがとう。」

キリヤ「ほのか、格好良かった。」

ほのか「キリヤ・・・」

えりか「ひゅ〜ひゅ〜!! 熱いぞ二人とも!!」

ほのか「ちょっ!!」

うらら「私達だって熱いです!!」

シロー「ニ、ニら!?! 抱きつくなよ!!」

満「どっちもどっちね。」

たわいのない平和な会話が再び訪れた。

つぼみ「おばあちゃん、ありがとうございます。」

薫子「いいえ、答えを出したのはあなた自身よつぼみ。」

つぼみ「・・・あ」

つぼみは振り返ると笑顔の響達がいた。

響「ありがとう。」

奏「そしてさようなら、別の世界のプリキュア。」

響達の体は静かに光り出した。

つぼみ「みなさん！！・・・ありがとうございます。」

エレン「また会いましょう?。」

アコ「会えるかな?。」

つぼみ「会えますよ・・・じゃなかったら・・・絶対に許さない！
！です。」

響達がつぼみの言葉により安心したような表情を表し光と共に消えた。

・・・

つぼみ『私達は思い出した大切な夢に向かって、もう一度頑張る事にしました。』

数カ月後、新聞には

『モデル・来海ももか、今度の衣装は妹のデザイン。』

ももか「頑張ったわね、えりか。」

えりか「もも姉のおかげだよ。」

.....

いつき「はあ!！」

「うわあ!？」

あるスポーツ雑誌には

『全国中学生空手予選会、優勝は明堂院いつき。』

.....

学校では

先生「みんな、ゆりが全国中学生模試で全国ベスト4に入ったぞ!」

ゆり（やった!!!）

生徒「すごいー!!」

.....

つぼみ「おばあちゃん!!順調に成長してます!!新記録です!!」

薫子「あら、本当!」

つぼみは順調に自分だけの花を育てていた。

.....

そしてある夕暮れ

?????」

ある少年が絵を書いていた。

?????」.....?」

すると目の前には白い服を着た少年がいた。

?????」君、名前は?」

少年「.....」

?????」僕はオリヴィエ、一緒に遊ぶ?」

少年「うん。」

オリヴィエと少年は一緒に遊んだ。
そして

オリヴィエ「あつ、流れ星!!」

空には流れ星があった。

二人は願いを言う。

つぼみ『私達は・・・希望を持ち、また夢を追いかける事にしました。そして一つだけ分かった事があります・・・』

オリヴィエ、少年「プリキュアがいつまでもいつまでも僕達を守ってくれますように!!」

つぼみ『パラレルワールドでプリキュアは本当にいるという事を。』

.....

半年後

つぼみ「じゃあおばあちゃん、行ってきます。」

薫子「気をつけるのよ?」

つぼみ「はい!」

.....

つぼみはある場所に向かった。

そこには

えりか「つぼみ遅いよ〜。」

つぼみ「すみません、花を持つのに慎重だったの。」

えりか「達いわゆるハートキャッチ組をあわせ、あの戦いでプリキュアに变身したメンバー、そしてキラヤ達がいいた。」

なぎさ「つぼみ！！早く早く！！！」

ほのか「なぎさ、騒がないの。」

キラヤ「楽しみなんだね。」

ひかり「でもどうするんですか？」

つぼみ「おばあちゃんがくれたこのペンダントは奇跡の力を起こせるという事があの戦いでわかりました。」

咲「・・・で？」

満、薫「ええ（汗）」

舞「ようするにそれを使っていくのね、プリキュアの世界に。」

つぼみ「はい、でもみなさんも来るとは意外でした。」

のぞみ「ひとりだけ抜け駆けはさせないよ〜！！！」

りん「抜け駆けって・・・（汗）」

うすら「でもパラレルワールドに行くなんて素敵です!!」

シロー「ま、面白いかな。」

こまち「別世界でも羊羹料理を広めましょう。」

かれん「それはダメ。」

くるみ「全く……」

夏「だが本当にできるのか？」

コージ「大丈夫だって!」

ラブ「別世界でも幸せゲットするぞお!!」

美希「ラブらしい。」

ミュキ「別世界にも私がいるのかしら？」

祈里「どうでしょうか？」

せつな「とりあえず大丈夫よ。」

えりか「ちよつと早くしてよ。」

いつき「えりか落ち着いて。」

ゆり「焦ってはダメよ。」

つぼみ「みなさん、準備は大丈夫ですか？」

全員「大丈夫!!」

つぼみ「それじゃ・・・行きます!!」

終わり

再び夢へ（後書き）

活動報告のアンケートご協力お願いします。

つぼみ「それまでどうするんですか？」

ターザン「今作で改めて小説は難しいって思ったからこれからは意識していく、でもクリスマスまで何をするかまだ決まってるない。」

えりか「ええ〜。」

ターザン「クリスマスまでか近々活動報告に報告するよ。」

いつき「というわけでー!!」

ゆり「応援ありがとうございましたー!!」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4033y/>

大決戦!!超プリキュアオールスターズ～目覚める伝説の戦士～

2011年12月9日00時59分発行